

千葉市感染症発生動向調査情報

2024年 第23週 (6/3-6/9) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	定点	23週	22週	21週	20週	
上段: 患者数 下段: 定点当たりの報告数 「定点当たりの報告数」とは 報告数/報告定点数	小児科	18	18	18	18	*正式名称は インフルエンザ/COVID-19定点
	眼科	5	5	5	5	
	*インフル/COVID	28	28	28	28	
	基幹	1	1	1	1	

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	6/3-6/9	5/27-6/2	5/20-5/26	5/13-5/19	5/27-6/2
			23週	22週	21週	20週	22週
小児科	RSウイルス感染症		15	9	11	9	136
			0.83	0.50	0.61	0.50	1.11
	咽頭結膜熱		11	1	5	2	65
			0.61	0.06	0.28	0.11	0.53
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓↓	57	70	74	59	839
			3.17	3.89	4.11	3.28	6.82
	感染性胃腸炎	↓↓	117	141	109	82	610
			6.50	7.83	6.06	4.56	4.96
	水痘		0	2	2	1	42
			0.00	0.11	0.11	0.06	0.34
	手足口病	◎	59	38	13	6	219
			3.28	2.11	0.72	0.33	1.78
* インフル /COV ID	伝染性紅斑		4	0	5	1	11
			0.22	0.00	0.28	0.06	0.09
	突発性発しん		6	10	14	10	42
			0.33	0.56	0.78	0.56	0.34
	ヘルパンギーナ		8	6	3	1	43
眼科			0.44	0.33	0.17	0.06	0.35
	流行性耳下腺炎		2	3	3	2	11
			0.11	0.17	0.17	0.11	0.09
基幹	* インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	3	0	2	47
			0.00	0.11	0.00	0.07	0.24
	新型コロナウイルス感染症	→	85	79	84	74	961
			3.04	2.82	3.00	2.64	4.81
	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	1
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.03
	流行性角結膜炎		2	1	2	1	22
			0.40	0.20	0.40	0.20	0.65
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
基幹	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	2
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.22
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	1	0
			0.00	0.00	0.00	1.00	0.00
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
基幹			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

「流行中」 流行発生警報開始基準値以上

「やや流行中」 流行発生注意報基準値以上、又は流行発生警報開始基準値を下回った後に流行発生警報終息基準値以上

2 全数報告対象疾患: 8 例

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	女性	20歳代	IGRA検査	侵襲性髄膜炎菌感染症	男性	50歳代	病原体の分離・同定
	女性	40歳代		侵襲性肺炎球菌感染症	女性	80歳代	病原体の分離・同定
	女性	80歳代	病原体等の検出	梅毒	男性	20歳代	血清抗体の検出
カルバペネム耐性 腸内細菌目 細菌感染症	女性	80歳代	細菌の検出、 薬剤耐性の確認 及び起因菌の判定	破傷風	男性	80歳代	臨床決定
				-	-	-	-

・第23週は、結核3例(75)、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症1例(6)、侵襲性髄膜炎菌感染症1例(1)、侵襲性肺炎球菌感染症1例(4)、梅毒1例(34)、破傷風1例(4)の発生届があった。

※ ()内は2024年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第23週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

前週より減少し3.17となった。過去10年の同時期と比べると多めで、年齢階級別の報告数は5歳が最多。区別では、緑区(7.00)が流行発生警報終息基準値(4.0)を上回り最多で4歳及び5歳の報告が最も多かった。

<感染性胃腸炎>

前週より減少し6.50となった。過去10年の同時期と比べるとほぼ例年並みで、年齢階級別の報告数は4歳が最多。区別では、若葉区(14.50)が流行発生警報終息基準値(12.0)を上回り最多で4歳及び8歳の報告が最も多かった。

<手足口病>

前週より増加し3.28となった。過去10年の同時期と比べると最多で、年齢階級別の報告数は1歳が最多。区別では、花見川区(7.00)が流行発生警報開始基準値(5.0)を上回り最多で1歳の報告が最も多かった。

<新型コロナウイルス感染症>

前週からほぼ横ばいで3.04となった。年齢階級別の報告数は30歳代が最多。区別では、中央区(4.20)からの報告が最多で30歳代及び50歳代の報告が最も多かった。

■ 「過去10年との比較グラフ」及び「区別の発生グラフ」はWebSiteでご覧いただけます。

・ 過去10年との比較グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2024.pdf>

・ 区別の発生グラフ

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph_ward2024.pdf

■ トピック ■

<破傷風>

第22週現在の全国レベルの累積届出数は29例で、過去10年の同時期(平均35.0)と比べると平均より少なくなっています。都道府県別では、愛知県(4例)が最多であり、次いで沖縄県(3例)が多くなっています。千葉県は1例となっています。

千葉市では第23週に、2022年8月以来の届出がありました。

2014年第1週から2024年第23週まで9例の届出があり(図1)、男性8例(88.9%)、女性1例(11.1%)で、年代別では8例が60歳以上で70歳代(4例、44.5%)が最も多くなっています(図2)。

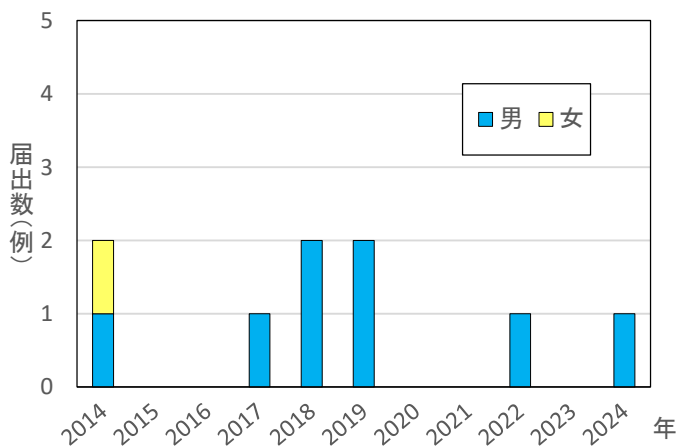


図1 年別・性別
(2014年第1週-2024年第23週 n=9)

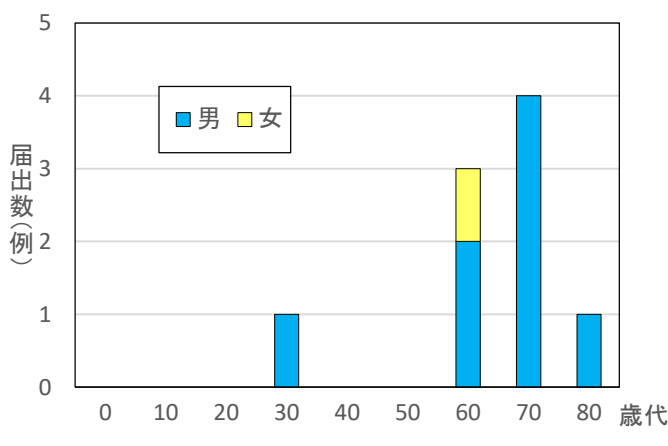


図2 性別・年代別
(2014年第1週-2024年第23週 n=9)

感染経路別では、針等の鋭利なものの刺入による感染が3例(33.3%)、創傷感染が2例(22.2%)、その他が4例(44.5%)でした。その他4例の内訳は、土いじりが2例、農作業1例、不明1例であり、土壌に直接触れる事例が3例でした。ワクチン接種歴についての記載があった事例は8例であり、内訳は2例が有り(1例は1回目のみの記載、1例は回数不明)、6例は無し又は不明でした。

破傷風(tetanus)は、*Clostridium tetani* (破傷風菌)が産生する神経毒素(tetanospasmin)による神経疾患です。

破傷風菌は芽胞(がほう)という固い殻に包まれた状態で土壌などの環境に広く分布しています。

潜伏期間は、3～21日(平均10日)です。主に傷口から体内に侵入した芽胞は酸素がない(嫌気状態の)感染部位で発芽、増殖し毒素を産生して、さまざまな神経に作用します。口が開き難い、顎が疲れるといった症状に始まり、歩行や排尿・排便の障害などを経て、最後には全身の筋肉が固くなって体を弓のように反り返らせたり、息ができなくなったりし、亡くなることもあります。人から人へ感染することはありません。

予防には、定期のワクチン接種を確実に受けることと、創傷部の迅速で適切な処置が重要です。

ワクチンは、定期接種第1期では四種混合ワクチン*で、生後3～90か月に至るまでの間に4回接種し、第2期では二種混合ワクチン**で1回接種します。第2期の接種は、小学5年生～中学1年生(年齢は11～12歳)なので、忘れないよう注意しましょう。定期接種は1968年から始まっているため、患者の多くは定期接種前に出生した60歳以上となっていますが、第2期接種を忘れてしまうなど定期予防接種のスケジュールに沿ったワクチン接種を受けていない場合は、それ以下の年代においても発症する可能性があります。

破傷風は、自然に免疫がつくことはなく、また、世界中の土や動物のフンなどに破傷風菌が存在していることから、誰でも破傷風にかかる可能性があります。定期接種を確実に受けることに加えて、10年ごとの沈降ジフテリア破傷風混合トキソイドあるいは沈降破傷風トキソイドの追加接種が重要です。定期接種が未接種あるいは接種歴が不明の場合は、積極的に、破傷風トキソイドを接種することを検討しましょう。また、自分自身や家族が、いつ何回破傷風トキソイド接種を受けたのか、記録しておくことも大切です。

*四種混合ワクチン:ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ

**二種混合ワクチン:ジフテリア・破傷風